

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日 2018 年 5月16 日	
派遣プログラム	<input type="checkbox"/> HUSA <input type="checkbox"/> USAC <input type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	University of Minnesota 大学 (国名：アメリカ合衆国)
所属学部・学科等名	College of Science and Engineering
在籍身分	Non-degree seeking exchange student
留学期間	2017 年 08 月 26 日～ 2018 年 05 月 13 日

1. 留学するまで

留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	自分は、コンピュータサイエンスに興味がある。アメリカ合衆国は日本よりもコンピュータサイエンスの分野が総じて進んでいるので、留学することでより良い学びを得られると考えたから。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	TOEFL 対策: 2017/02 ビザ申請: 2017/06 寮の申請や各種 University of Minnesota 側の手続き: 2017/07 パッケージング: 2 日前
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	学校の Requirement に従い、特に公的な手続きを優先的にこなした。基本的に公的な書類がきっちり揃っていればそれで特に問題はないが、強いていえば履修を可能な限り早めに決めたほうが良い。あと、到着後のアパートまでの車の手配とかもしておくとも良いかもしれない。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: J-1
	ビザ申請先: 駐大阪・神戸米国総領事館
	提出書類: 代理業者に委託したため不明
	手続きに要した日数: 2 日程度
その他必要な事前手続き	アパートの予約。航空券の取得。パスポートの更新。
出国年月日	2017 年 8 月 23 日
経路 (往路)	成田国際空港/ダラスフォートワース国際空港/セントポール国際空港
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者 ・ その他) <input type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (期間: 7 日 内容: 各種手続きや注意事項の伝達) <input type="checkbox"/> 無
帰国年月日	2018 年 5 月 13 日
経路 (復路)	セントポール国際空港/シカゴ オハラ国際空港/成田国際空港

3. 留学費用について

支出額	総額	2306,400	円	
	内訳	渡航費（往復）	200,000	円
		ビザ申請手数料	50,000	円
		予防接種費用	5,000	円
		保険料	300,000	円
		教材費（授業料以外の学費）	30,000	円
		宿舍費（住居費）	961,400	円
		光熱費	0	円
		食費	450,000	円
		通信費（インターネット・携帯）	10,000	円
		交通費（宿舍－大学間）	5,000	円
		交際費	300,000	円
		その他（ 費）		円
（ 費）		円		
（ 費）		円		

4. 授業・修学について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	コンピュータサイエンスのカリキュラムやそれに関連する内容のもののみをとった。具体的な科目としては Web 開発、データベース、機械学習やデータサイエンスのコースを履修した。基本的には講義を受け、ほぼ毎週出題されるかなり高度なプログラミングや数学の課題を解いた。また授業によっては 1 学期に 4 人グループで 4 つ web アプリを作成するグループワークもあった。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてのアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	<p>class については、宿題をきちんとやれば内容も理解できるし試験もできるし成績も取れるだろう。授業は予習しなくても特に問題はなかったが、しといたほうが良いことがあるかもしれない。留学前の私の状況としては、私が履修した全てのトピックは、元々親しみがある内容だったので留学前にも特に class について行くための予習はしていない。</p> <p>先生の英語は聞き取れなかったが数式やプログラミングコードをみればだいたいわかるので語学上の問題はなかった。それに仮に英語を勉強していったとしても訛りまで対策することは不可能だと思うので、現地に行って慣れるしかないと思う。インド人や中国人の教授の英語は本当にわからなかった。悲しくなるほどにわからなかった。帰国する 1 週間前になってもやっぱりわからなかった。つまり現地に行っても英語の問題が解決されるとは限らないが、それで授業が壊滅的に理解できないことはなかったので専門分野についての理解があれば英語で悩むことはない場合もあるだろう。</p> <p>シラバス、特に成績条項が日本に比べてははっきりと与えられるので、それをもとに成績を勘案し、与えられた課題を粛々と行えばいい成績は取れる。わたしは、留学期間中合わせて 26 単位(院の授業を 13 単位と、4 年生の授業を 10 単位と 3 年生の授業を 3 単位)とったが、なんとかなった。私のクラス編成だと、個人タスクの宿題と試験だけが成績条項のものが多かったので、宿題と試験を頑張った。小学生の感想のような感じであるがそれで、成績はきたのでシラバスに従えば良い。が、例えば、ビジネス・マーケティング系や、ESL や演劇などを取っている人たちの話からすると、グループワークは大変だそう。またグループワークで話せなかったら成績は下がるそう。また、留学当初、英語が話せなかった頃、グループのプレゼン発表で、メンバーから、グループの評価が下がるという理由で、最初の挨拶</p>

	拶と最後の簡単なまとめパートだけ話すようお願いされたりしたそうなので、そういう授業をとるなら英語を話せたほうがいいのかもしいかな。
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など）	授業のレベルが高い。最先端のトピックをガンガン出してくる。あと課題(宿題)が毎週出る。あと、アメリカの授業といえば授業中に質問しないと成績が悪くなるようなイメージを持っていたが、成績は悪くなかった。でも生徒は活発に質問していた。私はだいたいわかったので質問することがなかったし、あるいはわからなくてもどう質問すれば良いのかわからなかった。授業後に教科書を読むなり、もらった資料を読めばわかったので結果的に問題はなかった。プレゼンテーションは大変なので私は諦めて、原稿を読むことに徹した。発表の際、質問がよくきたが、私は図と数式でのりきった。

5. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> その他（大学のアパート）
住居の広さ	約 388.8 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有（4人） <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（ ）
住居費	1ヶ月当たり \$917（現地通貨） 約 100,870 円
留学先での住居全般に関するアドバイス	大学の別の寮(Yudof)に移動するのが良いだろう。1人部屋で Univeristy Village より安いが設備は同等である。あとルームメイトは重要だ。
(2) 医療について	
保険の加入先	<input checked="" type="checkbox"/> 本学指定の保険 <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 <input type="checkbox"/> その他（ ）
保険の補償内容	補償額 死亡 10,000,000 円、入院1日 円 その他（ ）
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（種類： おたふく風邪 回数： 1 医療機関名： 松野クリニック） <input type="checkbox"/> 無
留学先国の医療事情（日本と比較して）	1度も使ってないので実情は知らないが、学校の説明によると、まず University of Minnesota で強制的に医療保険に入らなければならない。その保険に入れば基本的な疾病は大学付属の病院にて無料で治療してもらえる。あと、医薬品が手軽に買える。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	課題をこなす忙しさで、よく朝ごはんや昼ごはんや夜ごはんを食べるのを忘れたが、忘れない方がいいと思う。あとお酒も飲みすぎない方がいいと思う。後、冬が長いので暖かくするべきだと思う。
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
ミネソタはアメリカでもかなり安全なほうだと思うが、それでも危険な地域はある。基本的には夜出歩かなければまったく問題はない。出歩けばミネソタでも多少危険らしい。難民区域とかも多分危険だと思う。	
(4) 食生活についてのアドバイス	

<p>2018年4月になって急に近所に素晴らしいスーパーマーケット(野菜がきちんと売ってある!)ができたので来季からの留学生は生鮮食品に困ることはないだろうが、私かいた頃はスーパーが遠かったし、そのスーパーでさえろくに野菜が売ってなかったので大変だった。そもそもよくご飯を食べるのを忘れていた。外食は総じて高くてまずいが、中華料理や韓国料理は比較的好い。あくまで比較的。価格が高い店(1皿\$30以上)なら大抵美味しい。日本食は日本のものとと比較すると微妙で高い。困ったら中華料理か韓国料理を食べに行くと良いと思う。</p>
<p>(5) 気候・服装についてのアドバイス</p>
<p>とても寒い。11月頭から雪がふり、12月以降3月末未滿は毎週吹雪があるくらいの感覚であながち間違いではない。とにかく寒い。4月中頃に猛吹雪が発生し授業が休校になるほど寒い。が、部屋は暖かい。外出用に登山レベルのアウトターを持ってくれば生き残れるだろう。あるいは現地できちんとしたものを購入すれば生き残れるだろう。</p>
<p>(6) 学内外の施設・設備環境について(インターネット環境含む)</p>
<p>インターネットがものすごく早い。具体的には学校のWifiで32Mbps(4MB/Sec)は出ていた。後、路面電車とかでも無料でwifiが使える。後スターバックスや各種コーヒー店やらその他店舗でもフリーwifiが多数ある。街中にはカフェがたくさんあるので困ったらカフェに行けばネット回線を確認できる。ただ、知らない土地に旅行する際などのことを考えれば現地のキャリアを契約することは悪くない選択だと思う。私は現地のプリペイドwifiを契約したが回線が微妙だったので普通にキャリアにすればよかったと後悔している。プリペイド通信サービスは乱立しているのもっと調べれば良いものがあるかもしれない。調べる手間が惜しくなければ調べてみると良いだろう。</p>
<p>(7) 現地学生や地域との交流について(どのような、機会・きっかけがありましたか?)</p>
<p>私は現地(アメリカ)学生との交流は皆無に等しい。かろうじて言えば、English club(月一)に少し顔を出したくらいである。というのも、私がとっていた授業はコンピュータサイエンスの大学院の授業がほとんどだったので、それらの授業を受けている生徒(大学院生)のほとんどが、インド&中国からの留学生で現地生はもちろん白人がまばいなかった。生徒に限らず教授もインド人か中国人の先生がほとんどだった。まるでインドか中国に留学に行っているかのようであった。そのため、授業では現地学生との交流はなかった。</p> <p>他にもスマートフォンアプリ開発やらBlockchainやら人工知能の勉強をしている学生サークルに行ったりしたが、中国人とインド人しかいなかった。フリスビーのサークルとか行けば現地の学生とも交流が持てたと思う。また数学や統計学や経済学の学科もインド&中国人がほとんどだそう。</p> <p>一橋大学からの留学生から聞いた話だと、Business schoolの方は逆に現地の白人しかなくてアジア人は自分だけで辛いと話していた。現地学生と交流する目的で授業をとるならBusiness schoolに行くと良いだろう。Business schoolはディスカッションやらプレゼンテーションが多いらしいので、きっと現地学生との心温まる交流が可能だと思う。ただ彼曰く、英語ができないとマジで浮くそうである。</p> <p>授業のことは置いて、現地学生との交流について考えれば、交換留学生と交流したい外国人との各種マッチングサービス(学校主催 or 民間)を積極的に利用するのも良いだろう。</p>
<p>(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと</p>
<p>みんな時間にルーズである。現地人だと10分程度は遅刻するのが標準である。インド人は6時間以上遅刻することが標準である。少なくとも私の体験においては、そして遅刻しておいてそんなに謝らない。怒りを感じるかもしれないが穏やかな気持ちを持つよう注意すべきである。それが異文化交流である。</p>
<p>(9) 日本から持っていくべきもの、持っていきべきでないもの</p>
<p>持って行くべきもの: PC, 予備のPC, バックアップHDD, データ保存HDD, 枕, 鉛筆, 関数電卓 持って行くべきでないもの: 必要のない参考書, 夏服, 日本で買った気密性がそこそこの冬物コート</p>
<p>(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス</p>

履修・授業で困ったら先生に気軽に連絡してみるべき。それ以外でも各種困ったら担当者にメールするべき。レスポンスが早いしだいたい丁寧。それでも困ったらメールで連絡の上、会いに行くのも良いと思う。私はこれでかなり助けられた。例えば、後期に院の授業を10単位ほど取る代わりに、学部交換留学生の単位下限(13単位)を引き下げてもらう交渉をした時、とても親身になって相談を受けてくれた。あるいは、履修で困っていた時、先生にメールを出すと現状の履修状況や注意事項などを丁寧かつ素早いレスポンスで教えていただいた。あるいは、課題がどうにもわからなかった時、先生に相談すると個別のミーティングを組んでいただいたりした。

困ったら先生に気軽に連絡(メール)をすることを強くお勧めする。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2019年3月 (当初の卒業予定年月 2019年3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	帰国直後でまだ時差ぼけがあるのでそれを直しつつ、広島大学の授業を受けつつ、大学院入試の対策を行いたい。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	留学前にあらかじめ単位を揃えていれば卒業について単位で心配することはないだろう。就職活動について、アメリカで11月ごろにBostonで留学生むけの大規模な就活イベントがあるのでそれを利用したら良いと思う。私はその頃プロジェクトで忙しくて行っていないが。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
Rate My Professor	http://www.ratemyprofessors.com/	教授の評判口コミ。低評判の先生は地雷であった。
Gopher Trip	http://www.pts.umn.edu/bus/gophertrip	ミネソタ大学のバス運行状況アプリ

8. 後輩へのメッセージ

モンスターエナジー24缶入りをamazonで定期購入していました。それにモンスターエナジーはまとめ買いしたほうが圧倒的に安いのでおすすめです。後、レッドブルも16ounce(473ml)とか20ounce(591ml)とかが売っているのでぜひ。日本、アメリカ、ヨーロッパのレッドブルとモンスターエナジーをアメリカで飲み比べることができましたが、日本のより濃いです。ただ、ヨーロッパのより薄いです。ヨーロッパのモンスターエナジーはアメリカのより量も多くてよかったです。

後、家電・PC関連はアメリカの方が安いのでそれらの購入もおすすめです。

9. 自由記述 (1,200 字程度)

この留学生活は、日本では到底できないような高度なコンピュータサイエンスの勉強ができてとても充実した1年だったと思う。あと、前期からもっと積極的に行っとけばよかったなと思う点が少しあるが、それはしょうがないだろう。積極性については今後の課題としたい。

留学期間中もっとも印象に残った体験としては、いくつかのHip-Hop コンサートに行けたことがある。個人的にHip-Hop music が好きなのでそれはとても良い経験であった。あとニューヨーク旅行もよかったと思う。ニューヨークといえば世界で最も大きい都市であるが、そこを見ておくことは人生経験として良いものだった。

留学の前と比較して、英語が特に上達したような気はあまりしない。別に英語を勉強しに行ったわけではないのでその点について特に思うことはない。もうちょっと積極的に現地の人と話したかったとは思いますが現地の人の関わりが皆無なのでそれは高望みだとも思う。インド人とは良く話した。が、英語の向上には役に立たなかったと思う。訛りが強すぎるので。あと中国人とも良く話した。が、英語ではなく(もちろん中国語でも日本語でもなく)モデリング言語だとか、プログラミング言語だとかアルゴリズム記述メインだったので、やっぱり英語力の向上には役に立たなかった。が、インド人より鈍りが少なかったので、割と話しやすかった。ただ、一つ英語力の明確な向上点としては、最初のころと比較して、飲食店で注文がスムーズに通るようになった点あげられる。最初の頃はコーヒーを頼むのにもなんとも言い直したものだが、最後の方になるとネイティブっぽくスタイリッシュに頼めるようになったと思う。その点は大きな差異だが、それを英語力の向上というのはどうなのだろうか。プログラミングやら数学のレポートで英語も書かなければいけなかったのでそれなりに英語も読み書きしたので、ライティングやリーディング力は上がったと思う。そんなことよりも、圧倒的にプログラミング技術や数式読解技術が大幅に向上した点を強調したい。学校の授業でもR言語をひたすら書いたり、LAMPに変わるMEANスタックの亜種(AngularがReact)であるMERNスタックでアプリを1学期に4つも作ったり、Java(Scala)のPlay FrameworkにOracle DBにCoach DBにSwiftにHadoop, Spark, Matlabと新たに習得したスキルが目白押しである。とても楽しかった。

今回の留学での経験を留学の中だけのものとせず、残りの学生生活でももっとスキルセットを充実させ続けたいものである。特に、授業・ラボでお世話になったMax先生のように、アルゴリズム研究からHCI(Web開発)まで網羅できるエンジニアになりたいと思う。そのような目標の具体例を得ることができたのは得難い経験であった。

総括として、ミネソタでの生活は、特に勉学の点においてとても良いものであった。また機会があればアメリカで勉強したいと思う。





注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます（氏名及び学生番号については、非公開とします）。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。